

2022年 GMO フリーゾーン登録状況報告

遺伝子組み換え食品いらない!キャンペーン 原英二

遺伝子組み換え作物に反対して始まった GMO フリーゾーン運動は新しい局面を迎えています。2021年の年末にゲノム編集トマトが届出受理され、これを開発した事業者のサナテックシード社は全国に苗を無償配布するとともに販売を開始し、遺伝子操作作物が全国で栽培される状況となりました。これまでは国内で遺伝子組み換え食用作物は商業栽培されていませんでしたが、この新しい遺伝子汚染の動きに抗して GMO フリーゾーン運動の意義を再確認し、ゲノム編集も栽培しないことを要件に加えて運動を進めています。

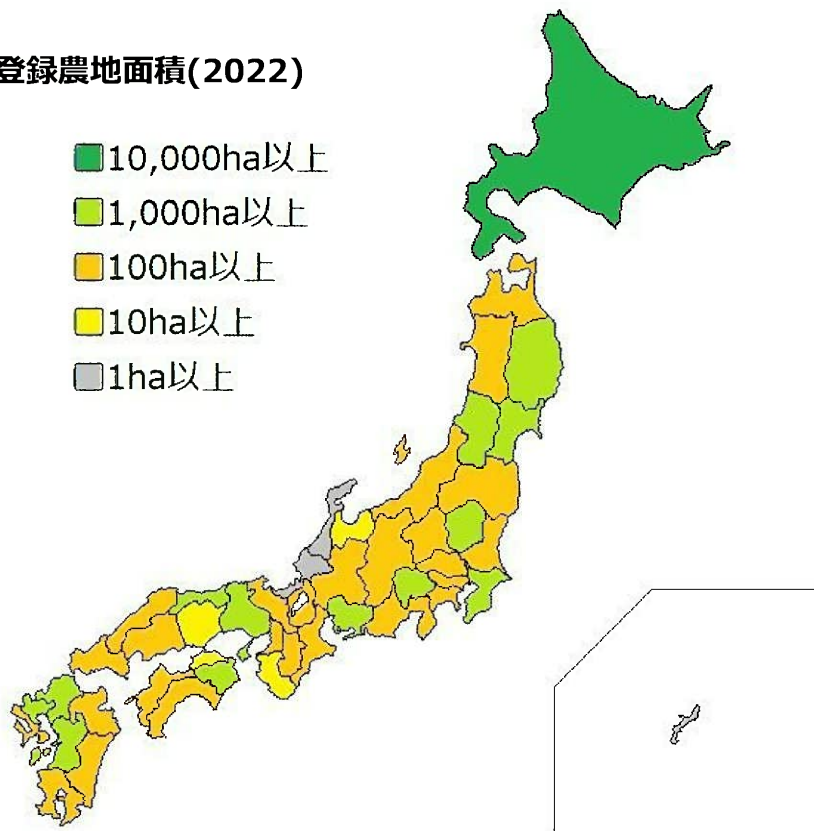
全国のGMOフリーゾーン登録面積は、農地が1,320ヘクタール増えて10万6,036ヘクタール、牧場、森林もそれぞれ増えて294ヘクタール、4,448ヘクタールとなりました。

ゲノム編集技術は海の魚にも応用され、すでに2種のゲノム編集魚が届出受理されて、養殖が始まり、海も遺伝子汚染の脅威にさらされています。瀬戸内海に臨む広島で開催される2022年交流集会は海のGMOフリーゾーンをテーマの一つとしています。今後は海のフリーゾーン運動も積極的に進めることとし、今年度は広島県で10ヘクタールが追加登録され、12万17ヘクタールとなりました。また太平洋で遠洋漁業を営む水産事業者も2事業者登録されました。

GMOフリーゾーンをサポーター宣言も、個人が3,024人増えて23,698人、事業者が56社増えて155社となりました。ゲノム編集のことを知らない消費者が多いうちに、表示もなく、どんどんゲノム編集食品が出てきて浸透していきまうことが懸念されます。GMOフリーゾーンサポーター宣言をしてもらうことで、ゲノム編集食品を始めとした遺伝子操作食品の問題点を知ってもらうことも大切です。

これからも、農地に、山に、海に、サポーターに、遺伝子操作 NO!の運動を広げていきましょう。

フリーゾーン宣言登録農地面積(2022)



2022年GMOフリーゾーン登録状況（2022年2月現在）

農地(ha)

	2022 面積	前年増減
北海道	47,780.4	127.8
青森県	586.2	206.0
岩手県	3,249.2	1.4
宮城県	7,841.2	0.0
秋田県	333.9	0.0
山形県	5,217.5	7.8
福島県	287.8	0.0
茨城県	557.2	0.0
栃木県	2,218.5	2.0
群馬県	223.9	5.0
埼玉県	392.8	1.4
千葉県	1,875.4	0.0
東京都	598.4	0.2
神奈川県	414.6	0.0
新潟県	191.0	0.0
富山県	46.0	0.0
石川県	1.1	0.0
福井県	4.3	0.0
山梨県	1,464.1	0.0
長野県	385.6	10.0
岐阜県	140.1	2.5
静岡県	138.9	13.3
愛知県	3,463.5	7.5
三重県	379.4	0.0
滋賀県	376.1	0.0
京都府	116.0	1.0
大阪府	702.9	0.0
兵庫県	8,019.3	2.0
奈良県	469.4	88.0
和歌山県	32.0	0.0
鳥取県	1,216.9	10.9
島根県	243.9	14.0
岡山県	91.2	0.0
広島県	104.2	0.0
山口県	956.2	3.3
徳島県	7,117.2	7.9
香川県	78.8	0.0
愛媛県	445.1	6.0
高知県	671.1	2.0
福岡県	1,536.7	180.7
佐賀県	2,375.7	141.2
長崎県	915.8	63.8
熊本県	1,478.8	81.8
大分県	160.0	8.9
宮崎県	306.5	30.0
鹿児島県	705.0	193.2
沖縄県	126.4	100.3
合計	106,035.7	1,319.8

牧場(ha)

	2022 面積	前年増減
北海道	142.5	0.0
群馬県	15.5	0.0
千葉県	1.0	0.0
山梨県	0.6	0.0
長野県	20.0	0.0
岐阜県	6.0	0.0
滋賀県	4.0	0.0
鳥取県	100.0	0.0
広島県	0.3	0.0
熊本県	4.0	1.5
大分県	7.8	7.8
合計	293.9	9.3

森林(ha)

	2021 面積	前年増減
北海道	5.3	0.0
岩手県	5.0	5.0
山形県	0.6	0.0
福島県	13.0	0.0
群馬県	2.6	0.0
千葉県	2.5	0.0
長野県	6.1	0.1
岐阜県	64.0	15.0
静岡県	6.0	0.0
愛知県	1.6	0.0
三重県	0.1	0.0
滋賀県	3.0	0.0
奈良県	7.0	5.0
鳥取県	24.0	4.0
山口県	205.0	2.6
徳島県	40.8	0.8
愛媛県	2.0	0.0
高知県	4023.0	2.0
福岡県	2.5	0.2
長崎県	2.2	0.0
熊本県	0.03	0.0
大分県	16.8	9.8
宮崎県	10.4	0.0
鹿児島県	4.1	0.0
合計	4447.5	44.5

海

	2021 面積(ha)	前年増減
東京湾	120,000	0
広島県	10	10
佐賀県	7	0
合計	120,017	10

(遠洋)

	2022 登録(件)	前年増減
太平洋	2	2

個人サポーター(人)

	2021 登録	前年増減
北海道	4	1
青森県	70	4
岩手県	374	32
宮城県	493	12
秋田県	0	0
山形県	40	1
福島県	12	0
茨城県	890	9
栃木県	652	8
群馬県	195	14
埼玉県	1,387	93
千葉県	2,665	77
東京都	3,694	312
神奈川県	170	44
新潟県	0	0
富山県	0	0
石川県	2	2
福井県	1	0
山梨県	142	50
長野県	71	20
岐阜県	94	10
静岡県	701	116
愛知県	1,406	186
三重県	6	0
滋賀県	234	46
京都府	621	0
大阪府	1,522	60
兵庫県	871	86
奈良県	269	0
和歌山県	6	5
鳥取県	101	40
島根県	40	1
岡山県	480	2
広島県	1,547	527
山口県	756	83
徳島県	45	0
香川県	31	0
愛媛県	40	0
高知県	59	8
福岡県	1,658	726
佐賀県	435	162
長崎県	258	16
熊本県	952	161
大分県	266	24
宮崎県	253	46
鹿児島県	185	40
沖縄県	0	0
合計	23,698	3,024

事業者サポーター(社)

	2021 登録	前年増減
北海道	1	0
宮城県	5	0
山形県	3	2
福島県	2	0
栃木県	2	0
埼玉県	10	6
千葉県	5	0
東京都	31	2
神奈川県	1	0
長野県	3	0
岐阜県	5	1
静岡県	2	0
愛知県	22	1
三重県	2	0
滋賀県	4	2
京都府	1	0
大阪府	5	1
兵庫県	3	0
鳥取県	2	2
島根県	2	2
広島県	3	3
高知県	1	0
福岡県	7	6
佐賀県	22	22
長崎県	1	0
熊本県	4	3
大分県	1	1
宮崎県	2	2
鹿児島県	2	0
沖縄県	1	0
合計	155	56

2021 年度 生活クラブの GMO フリーゾーン運動

サステイナブルなひと、

生活クラブ

生活クラブ生協（東京）理事長／生活クラブ連合会理事 増田 和美

生活クラブでは、遺伝子組み換え作物を「作りたくない」「食べたくない」生産者・消費者の共感を広げる活動として、GMO フリーゾーン運動に取り組んでいます。生命の倫理に反し、企業による種の支配を招く「食べ物の遺伝子操作」に反対し、生活クラブは、原材料だけでなく、飼料などにおいても遺伝子組み換えのものは使わないことを基本としています。この「遺伝子操作」には、ゲノム編集技術も含まれます。2021 年は衆議院選挙に向けた政策提案運動に取り組み、ゲノム編集技術を含め全ての遺伝子操作食品の原料表示の義務化を各政党の選挙公約・マニフェストなどに反映するよう求めました。

2021 年度、GMO フリーゾーン面積は 24ha 増加して 64,231.8 ha になりました。

サポーター登録は、今年も各地域での呼びかけがすすみ、891 人が新たに登録。合計で 13,927 人になりました。加工・流通・店舗のサポーターの登録は 7 件で、合計で 48 事業所が登録しています。

GMO フリーゾーン面積 (ha)

都道府県	2020 年度末	2021 年度	2021 年度末
北海道	43,192.3	1.8	43,194.1
青森県	43.5		43.5
山形県	4,628.9		4,628.9
岩手県	104.4	0.2	104.6
福島県	2.4		2.4
宮城県	7,500.0		7,500.0
新潟県	80.0		80.0
栃木県	2,011.2	2.0	2,013.2
茨城県	246.5		246.5
群馬県	120.1	5.0	125.1
埼玉県	329.6	1.4	331.0
千葉県	503.1		503.1
東京都	90.2	0.3	90.5
神奈川県	190.9		190.9
山梨県	59.9		59.9
愛知県	2,889.7		2,889.7
長野県	272.6	0.0	272.6
静岡県	0	13.3	13.3
三重県	191.5		191.5
滋賀県	267.9		267.9
奈良県	218.1		218.1
和歌山県	12.2		12.2
京都府	1.5		1.5
大阪府	584.9		584.9
兵庫県	25.1		25.1
奈良県	5.0		5.0
岡山県	0.0		0.0
鳥取県	10.0		10.0
島根県	30.0		30.0
愛媛県	135.0		135.0
高知県	1.8		1.8
福岡県	315.3		315.3
長崎県	30.0		30.0
熊本県	114.2		114.2
合計	64,207.8	24.0	64,231.8

サポーター (個人) 人数 (人)

都道府県	2020 年度末	2021 年度	2021 年度末
北海道	1		1
青森県	80	4	84
山形県	36		36
岩手県	405	32	437
宮城県	1		1
栃木県	672	8	680
茨城県	889	8	897
群馬県	233	14	247
埼玉県	306	85	391
千葉県	3,211	72	3,283
東京都	3,773	266	4,039
神奈川県	293	36	329
山梨県	92	50	142
愛知県	1,093	135	1,228
長野県	40	2	42
静岡県	575	116	691
京都府	607	0	607
大阪府	401	40	441
兵庫県	140		140
滋賀県	178	23	201
鹿児島県	10		10
合計	13,036	891	13,927

*2021 年度の加工・流通・店舗のサポーターの登録は 7 件で、合計で 48 事業所が登録しています。

生活クラブでは、地域ごとに工夫して、GMOフリーゾーンとサポーターの登録を呼びかけています。登録を呼びかけることが、遺伝子組み換えについて情報を伝える機会となっています。2021年度の活動から、いくつかの事例をご紹介します。

●GMOフリーゾーン登録

北海道では、単協で長きにわたって提携関係にある仁木町（小樽市からさらに西にあります）の生産者グループ「鶴田農園グループ」の生産者が、GMOフリーゾーン登録しました。生活クラブ・北海道へは2021年9月より中玉トマトの供給を開始。生産側も消費者側も健康になれる野菜作りを目指しており、農薬を使わないことに徹底したこだわりをもっています。また、農福連携も掲げており就労支援にも力を入れています。圃場が他の農地と離れていることも決め手となりました。これによって他の圃場からの農薬の飛散も防ぐことができます。

東京では、生活クラブ・東京の地場生産者のグループ「農安心ネットワーク」に新しく参加した生産者が、GMOフリーゾーン宣言しました。静岡では、単協独自取組みの「お袋米」の6名の生産者が、合計13.3haをGMOフリーゾーン宣言しました。

埼玉、長野などでは、組合員が持っている農地をフリーゾーン宣言するよう呼びかけています。



生活クラブ・東京「農安心ネットワーク」生産者の圃場

●サポーター登録

各単協とも、組合員へのチラシ配布、イベントでの呼びかけ、オンライン登録などでサポーターを募りました。

事業所のサポーターも7件の登録がありました。東京ではデポー（生活クラブの店舗）が1件、埼玉では地場の大豆を利用した地産地消の納豆屋さん、カフェ、お蕎麦屋さんなど6件が登録しました。



生活クラブ・愛知のチラシより

GMOフリーゾーン運動に参加しましょう！



GMOフリーゾーン運動は、遺伝子組み換え作物（GM）を作らない、作らせない地域を広げる運動です。地域に根付いた種子と固有な農薬を守り、食文化を守る運動です。地域の自然と共生している人々の暮らしを守る運動です。

GMOフリーゾーン宣言をしましょう！

農家のみなさん 家庭菜園で作物を栽培しているみなさん 耕作する農地を登録してください。農地だけでなく遺伝子組み換え作物・樹木を植え不要なよう、牧場や山林も登録してください。

GMOフリーゾーン・サポーター登録をしましょう！

「GM食品は買わない・食べたくない」という組合員のみなさん、
「GM食品は売らない」というお店のみなさん、
GM食品はいらぬと、思ったら登録をしましょう。



登録方法：上記QRコードからか
所定の用紙に必要事項を記入のうえ
各センターに提出
登録締切：2022年1月21日（金）



サステイナブル政策委員会

生活クラブ・埼玉のチラシより

募集 GMOフリーゾーンサポーター登録

遺伝子操作食品はいらぬ、食べたくないという気持ちをサポーター登録して表してみませんか！

登録はこちらから→



GMOフリーゾーンとは、遺伝子操作作物が栽培されていない地域のことをいいます。

1999年にイタリアで始まった運動は世界に広まり、日本では05年滋賀県の針江げんき米グループが全国で初めてGMOフリーゾーン宣言をしました。生活クラブの農産物の生産者も宣言し、面積を登録しています。

また、GMOフリーゾーン宣言の看板を農地などに設置しています（千葉県には、旭市・千葉

市花見川区・山武市に大きな看板が設置されています）。

消費者が遺伝子操作作物はいらぬ・食べないと宣言して、支えているから生産者も栽培し続けるといえることができます。

右記に1つでも当てはまったら、GMOフリーゾーンサポーター（フリーゾーンを応援する人）登録をよろしく願います。ご家族・組合員

でない方も登録できます。

- ① 遺伝子操作食品はできるだけ食べたくないと思う。
- ② 生活クラブは「GMOは取り扱わないことを基本とする」「やむを得ず使用する場合は、情報を公開して取り組む」と1997年に決めて実践していることを知っている。
- ③ 生物の多様性も含めて、環境を大切にしていきたいと考えている。

2021 年度活動報告

コープ自然派京都 組合員理事 森島恵子

●2021年10月15日(月)上映会&講演会

映画タイトル『種とゲノム編集の話』とジャーナリスト天笠啓祐氏講演会をオンライン開催しました。イベント名を「そもそもゲノム編集って何だろう？高ギャバトマトやマッチョ鯛って本当に大丈夫？」にし当初100名を目標に企画を設定していましたが、急速に広がるゲノム編集作物、動物に対して、一般生活の中では得にくい正確な情報を皆さんに伝えたい想いと、生産者と生協職員、私たち組合員みんなで遺伝子操作に対して反対の意思確認をしたく、急遽生産者にも呼びかけました。目標を上回る参加があり、映画と講演会をセットとして観てもらい参加してもらうことで、より理解を深める内容になったと実感しています。



映像がキレイで癒されましたし、種を守る大切さも伝わりました。

講演会では「OKシードプロジェクト」の案内と「種苗への遺伝子操作表示を求める署名」の呼びかけも行いました。コープ自然派事業連合に加盟する全5生協で署名に取り組み、第一次集約では6931筆、第二次集約では4964筆、合計12000筆ほど集まりました。

●商品案内にもOKシードマークが登場しました

今後さらに国内外でGMやゲノム編集など遺伝子操作食品問題が加速することが予想されます。組合員や生産者と学習会を重ねて知識を深め反対していくとともに、表示することの大切さも伝えることが大切です。ゲノム編集食品を自主表示するOKシードプロジェクトと連携してOKシードマークを10月から商品案内でトマトとトマト加工食品に表示し、マークの普及に努めています。今後は生きものにやさしいアニマルウェルフェアのマークの導入も目指し、まずは鶏卵の表示取り組みを進め今年度中に実現予定です。



また、ゲノム編集トラフグが京都府のふるさと納税の返礼品に出品されたことを対して、2021年12月24日にコープ自然派京都から京都府宮津市長城崎氏に返礼品として取り扱わないよう要望書(抗議文)を送付しました。

●オーガニック給食への取り組みについて

コープ自然派の各地域でそれぞれ給食をオーガニックにと活動が芽生え、新たにコープ自然派全体で給食連絡会が発足し、相互に情報を共有する機会を設定しています。

2021年11月14日にはコープ自然派おおさかの「おおさかの学校給食を考える会」が中心となり『オーガニック給食プロジェクト IN 関西 2021』を開催しました。オーガニック給食の先駆者であるいすみ市農林課農政班主査の鮫田晋氏、メダカの学校理事長の中村陽子氏、前宝塚市長の中川智子氏をパネリストにお迎えし、講演していただきました。また大阪府の職員による大阪府の現状報告、関西各地での給食への活動発表、パネリストへの質問といったパネルディスカッションを行い、学校給食をオーガニックにしていくために、市民や保護者が声をあげていくことが重要だと再認識しました。

●各地域でのオーガニック農業推進協議会

各地域で協議会を立ち上げました。地域の有機農業、無農薬栽培に取り組む生産者の支援、栽培技術、農業経営に関する学び、意見交換の場を提供し地域に有機農業を拡げることが目的としています。

学校給食へ有機農産物の納入を拡げるなどの活動をコープ自然派と生産者または地域団体と連携しています。また有機農業者を育てるため、有機栽培技術を学べる取り組みも継続しています。四国では「NPO 法人とくしま有機農業サポートセンター」がお米の楽校としてスタートし、九州では野菜の学校「NPO 法人 ORGANIC SMILE」が4月から開講します。

●第7回コープ自然派生産者消費者討論会

2022年1月20日に第7回コープ自然派生産者消費者討論会をオンラインで開催しました。今回で7回目となります。2021年5月に農水省が発表した「みどりの食料システム戦略」に対して、遺伝子操作の一環であるRNA農薬や、有機栽培の定義を変えゲノム編集技術を認めることのないよう国に強く求めていく必要性を共有し、生産者と組合員、それぞれの立場で実現可能な「わたしたちのみどり戦略」を考える場となりました。

●各地域での活動

コープ自然派は四国4県と関西(兵庫・おおさか・奈良・京都)で地域ごとに活動をおこなっています。

(しこく)他団体と協力し、高知県の幼・小・中学校給食の食材を、グリホサート除草剤の残留や、ポストハーベスト農薬の心配のない国産小麦・大豆にしてください署名を呼びかける高知県知事と高知県教育長あてに提出しました。

(奈良)奈良県知事宛「主要農作物の種子の安定供給に関する県条例の制定を求める署名」の活動を行い、主要農作物の種子を守る根拠づくりの道を探っています。

(京都)生産者である道長さんをお迎えし遺伝子組み換えのお話をうかがいました。

(兵庫)「ひょうご大豆畑トラスト運動」を継続し、地元の安全な大豆の生産と消費を増やそう！食べよう！をモットーに活動しています。

「なでしこ米の田んぼの楽校」体験で終わらず一年を通じてお米作りを経験する事を目的にした活動も12年目を迎えます。水源である大池にはコウノトリが多数飛来しました。

また種もつながっています。昨年収穫したお米を保存し、翌年温湯消毒をして種まきを行います。



●GMOフリーゾーン農地登録について

毎年各活動にて組合員に案内、生産者が集まる機会を通じて職員と協力しながら呼びかけを行い続けています。少しずつですが、農地登録が増えています。

GMOフリーゾーン 2021年度農地登録面積(ha)

北海道	青森	鳥取	島根	徳島	愛媛	高知	熊本	沖縄
68.00	203.00	4.00	14.00	7.11	6.05	2.00	1.00	0.26

合計:305.42 ha

2021 年度 遺伝子組み換えナタネ自生調査報告

生活協同組合あいコープみやぎ 辻朗子

採取場所 全て宮城県内	調査 数	ラウンドアップ 耐性	バスター 耐性
石巻市 三河町など石巻港付近	14	0	5
仙台市、利府町	6	0	0
太白区、名取市、岩沼市	4	0	0
大崎市古川 旧富士飼料近辺	2	0	0
大郷町、大和町、大崎市ほか	9	0	0
合計	35	0	5

6 月末までに検査したのは 32 検体。今年度は 10 地区委員会とともに調査。太白・仙南地区の協力のおかげで県南の調査もできた。しおさい地区では定例会に招かれ、この調査の意味とやり方をレクチャーした後、簡易検査を一緒に体験。地区委員さんの関心と理解が深まる結果となった。これまでに確認された陽性検体はバスター耐性が 5 検体、全て石巻工業港にて。12 月に 3 検体確認、追加。

- ・**石巻港**…例年ナタネが見つかる歩道は工事のため雑草がなくなっていた。陽性が確認されたのは工業港フェンス北側のみ。
- ・**仙台港**…飼料会社の周辺道路を調査。理事 6 名と職員で体験と情報を共有。

石巻市 石巻工業港・JA 全農北日本くみあい飼料周辺



今年度最初に見つけた検体はバスター耐性ナタネでした。



これもバスター耐性ナタネ



石巻地区委員会と高橋徳治商店の高橋利彰部長によるナタネ調査隊

しおさい地区定例会で簡易検査体験



しおさい地区の定例会に招かれ、事前に採取してもらっていた検体を使って、一緒にナタネの簡易検査をしました。ナタネ調査の話聞くのも初めてという方もいて、興味を持って話を聞いてくれる様子や、「なるほど」と思う質問など、お互いに学べる良い機会をいただきました。コロナ感染防止のため屋外開催でしたが、さわやかな春の公園で久しぶりの対面での活動、楽しくも意義深い時間となりました。

石巻工業港のナタネ調査マップ



青マーク：ラウンドアップ耐性ナタネ

紫マーク：バスター耐性ナタネ

黄色：非遺伝子組み換えナタネ

2021 年度あいコープみやぎナタネ調査マップ



【学習会など】

- ・10/31 「教えて！八田さん」学習会
「オンライン Wa！わぁ祭り」の企画として「食ベママみやぎ」と共催。

【その他活動】

- ・「種苗への遺伝子操作の表示を求める署名」 あいコープみやぎ集約分 1,416 筆
- ・ゲノム編集トマト「はがきアクション」 全組合員に配布
- ・5/20～「遺伝子組み換えワタ、トウモロコシ及びセイヨウナタネの第一種使用等に関するパブコメ」

2021年度 グリーンコープ共同体 活動報告

2022年3月4日

グリーンコープおかやま理事長 飯村 美智子

一、はじめに

グリーンコープは、九州、中国地方、関西の滋賀、兵庫、大阪、そして昨年6月より福島も加わった、43万人の組合員が集う生活協同組合です。

私たちが、家族の健康と未来を守っていききたいと願う母親の想いから出発し、平和な社会と安心・安全、心豊かな暮らしを実現するために様々な運動を創り出してきました。特に「生命(いのち)を育て食ふもの」については、食の安全を脅かし生物多様性を破壊する遺伝子組み換え作物(GMO)に反対する運動を開始して以来、一貫して「いらぬ」「食べない」「作らせない」という運動を続けています。作物はもちろん、商品の一次原料、二次原料、畜産の飼料にいたるまで、徹底的にnon-GMOを追求し、遺伝子組み換え作物が使用されているかどうかを商品カタログで案内しています。2021年度も、「遺伝子組み換え食品いらない! キャンペーン」と運動して、全国の同じ思いを持つ仲間とともに、GMOフリーゾーン運動や自生GMナタネ調査活動、種苗への遺伝子操作の表示を求める署名運動などに取り組みました。

二、GMOフリーゾーン運動について

2021年度も遺伝子組み換え作物は植えない、売らない、買わないことを宣言するGMOフリーゾーン運動に取り組みました。GMOフリーゾーン運動は、多様な種を守り、それぞれの地域に適した農法による農業を次世代へ受け継ぐ、自然と共生する人間の暮らしを守る運動であり、いのちを守り育てる人たちが連帯する運動と言い換えることもできます。

グリーンコープでは、フリーゾーン運動を拡大するために、組合員に向けてフリーゾーン宣言、サポーター宣言の登録を呼びかけました。また、グリーンコープと関わりのある生産者、生産・加工メーカーへ向けてもフリーゾーン運動への理解を求め、フリーゾーンの登録のみならず、事業者としてのサポーター宣言も呼びかけるなど運動の拡大を図りました。また、今年の全国交流集会のテーマでもある海のフリーゾーンの拡大に向けても、意識的に呼びかけました。

今年度の登録は、グリーンコープエリア全体で、GMOフリーゾーンサポーターには、2,032人の宣言、メーカー・生産者など43団体からも宣言いただきました。農地が848.75ha、牧場が9.26ha、森林が12,567haとなりました。また、今年度、新たに呼びかけた海のフリーゾーンでは、漁業権を持つ3社より宣言いただきました。

三、自生GM調査活動について

2005年春から全国一斉にスタートしたGMナタネの調査活動は、今年で17年目になります。グリーンコープでは、今年も14単協で272カ所の調査を行ない、一次検査で3検体からラウンドアップ耐性、20の検体からバスタ耐性の陽性反応が生まれ

た。やはり港付近に集中していました。

6月22日(火)に、天笠啓祐さんを講師としてお招きし、「遺伝子組み換え・ゲノム編集のいま、遺伝子組み換え・グリホサート・ゲノム編集・RNA農業」という演題で講演いただき、今年度の調査活動に関する報告会を開催しました。陽性反応が出た3単協(グリーンコープひょうご、グリーンコープおかやま、グリーンコープふくおか)より調査活動の様子や、市町村へ学校給食についてアンケートを実施した様子について、以下の内容で報告がありました。

<グリーンコープ生協ひょうご>

兵庫県にはナタネの水揚げ日本一の神戸港があります。2016年に陽性が出て以来、ここ数年同じ深江浜周辺での調査を続けています。今年も、深江浜にあるJオイルミルズ周辺道路や芦屋市に向かう幹線道路を見て回りましたが、2016年、2020年と見つけた幹線道路脇には1本も生えていませんでした。2019年度の全国報告会において他団体より報告された、三井製糖の敷地内や敷地脇道路も調査しようとしたが、工事中で入れませんでした。しかし、マ・マーマカロニ(株)神戸工場前の植え込みの土のところに1本だけセイヨウナタネを発見し、バスタ耐性陽性でした。また、SNSでグリーンコープ生協ふくおかが時期をずらして抜き取り活動をしていることを知り、2週間後に同じ深江港周辺を調査すると、Jオイルミルズから300メートルほど離れた道路の中央分離帯にセイヨウカラシナがあり、ラウンドアップ耐性陽性でした。今回はいずれも深江浜のJオイルミルズ工場の道路沿いだったので、やはり水揚げ後、ベルトコンベアで工場に運ぶ途中で飛んできたナタネだと思いましたが、2年前にたくさん見つけた年に自生したものからこぼれ落ちた、もしくは、工場から数百メートルの地点なので、飛んできた遺伝子組み換えナタネとカラシナが交配したものかも知れません。来年もこの場所は往視して、しっかりと抜き取り活動をしていきます。

<グリーンコープ生協おかやま>

おかやまには、遺伝子組み換えナタネの水揚げ港が2カ所(水島港・宇野港)あり、毎年、その周辺と岡山市東区にある飼料工場へ向かう幹線道路沿いを調査しています。組合員で調査活動をする際には、飼料工場がある岡山市、水揚げ港がある倉敷市、玉野市の市議会議員に知らせました。市議の調査への参加はありませんでしたが、別件で連絡した際に、調査結果を知らせてほしいという話がありました。また岡山県に、遺伝子組み換えナタネを取り扱っている業者や、GMナタネが自生していることを把握しているかと尋ねたところ、国の調査報告書を見る範囲しか把握していないとの回答でした。今年度の調査では、宇野港にある製油会社の飼料工場敷地内、水島港周辺の沿道の2カ所から陽性反応がでました。宇野港から製油工場までの道路で、これまでGMナタネが発見されていた場所は、昨年に引き続き今年もきれいに抜き取られていて、許可をもらって調査したところ、バスタ耐性ナタネは、黄色い花が満開に咲いていて、許可をもらって調査したところ、バスタ耐性ナタネは、後日、検査結果とともに、会社としてどのように対策を取られるかなど質問をお届けしています。水島港周辺には、製油工場である日清オイリオグループ(株)水島工場や2つの飼料工場があり、日清オイリオのナタネの絞りかすが飼料工場に搬入されています。日清オ

イリオでは、種がこぼれてはいけなことを認識されていて、輸入したナタネは榨油工場まで密閉した状態で搬入、工場内は2時間置きにオペレーターが目視で巡回、敷地内は定期的に清掃、工場の外周の歩道や側溝は年2回ほど清掃しているそうです。なお今年、改めて輸送ルートや飼料工場で行なっている対策を知るために、県内の飼料・製油・製粉会社13社にアンケートをお届けし、7社から回答がありました。また、6月中旬には岡山県含め全28自治体に、学校給食への遺伝子組み換え食品の使用状況などを含む14項目についての質問書をお届けし、19自治体から回答があり、ホームページで公開しています。

<グリーンコープ生協ふくおか>

福岡には九州で唯一のナタネの荷揚げ港、博多港箱崎埠頭があり、これまでの調査でもGMナタネの自生が確認されているので、今年度は、この荷揚げ港からどのように自生ナタネが広がっているのかを把握するように調査地点を選定し、63カ所で行き取り調査を行いました。ラウンドアップ2、バスタ17の陽性反応がでたのは埠頭のみです。歩道と車道の間の側溝や、道路脇のわずかなアスファルトの隙間など、箱崎埠頭で自生しているものはほとんどがGMナタネでした。こぼれ落ちていくことが分っている状況なので、花が咲いてこれ以上広がっていくように、見つけたら抜き取っています。また、大豆もたくさん落ちていました。ナタネを荷揚げするアンローダーという機械やペルトコンベアは覆いもなくむき出しなので、こぼれて当然という状況で花も咲いていて、陽性反応がたくさん出ました。調査の結果、自生ナタネを増やさない、箱崎埠頭の外に拡げないことを目的に抜き取り活動を行っています。北九州地域主催で行なった調査の様子などは、インスタグラムでも紹介していますので、ぜひご覧ください。

調査活動と並行して、行政やメーカーにも実態をお知らせし、清掃や指導のお願いをしています。福岡県とは例年、調査活動の結果報告と遺伝子組み換えの勉強の場を設けていましたが、20年度はコロナ禍により実施できませんでした。箱崎埠頭がある福岡市にも、毎年実施していた市役所訪問を見合わせ、調査した実感を伝えながら要望書をお届けしました。私たちからは、周辺の清掃、飛散防止対策、抜き取りをお願いし、市からは、清掃や抜き取り作業について、周辺企業・メーカーに協力依頼を行なうという、例年同様の回答がありました。例年同様のやり取りだと感じたり、なかなかGMナタネの自生が減っていない現状はありますが、それでも埠頭周辺は清掃が行き届き、ゴミが随分と減ったことを実感しています。今後も、調査を継続していくことと、調査の実感を持って行政に意見を届けていくことを、諦めずに続けていきます。

21年2月に福岡県60市町村にアンケートをお届けし、37市町村から回答がありました。6項目について質問し、学校給食の遺伝子組み換え食品の使用状況や、校庭・園庭へのグリホサート系除草剤の散布などについて伺いました。遺伝子組み換え食品を使用しないとの回答が多く、中には町内産の大豆・小麦を使用、油はnon-GMOのなたね油を使用しているとの回答もありました。グリホサート系除草剤については、13市町村が使用している、24市町村が不使用との回答で、思っていたよりは使っていない印象でした。今後、福岡県に、このアンケート調査の集計結果とともに、学校給食の遺伝子組み換え食品の使用や対応策などについて、質問を届ける予定です。

四、遺伝子組み換え食品、ゲノム編集食品反対運動について

2020年末に、サナテックシーフード社が突然、ゲノムトマト苗の無償配布受付を開始したことを受けて、遺伝子組み換え食品いらない！キャンペーンの呼びかけに連動し、ネット署名「配らないで！植えないで！ゲノム編集高GABAトマト苗」を呼びかけ、加工品メーカーへ遺伝子組み換えトマトを使用しないでほしいとの消費者の声を直接届ける「ハガキ作戦」を、オールグリーンコープ生協くまもとでは、また、サナテックシーフード社の契約農家のあるグリーンコープ生協くまもとでは、同社の熊本営業所へ意見・質問を届け、熊本県や熊本市に向けてもゲノム編集トマトが栽培されていることに対する消費者の不安を伝えました。

2021年6月には、九州大学ですすめられた真鯖の研究について、その実態を知り、消費者のゲノム編集食品はいらないという意思を伝えるために、グリーンコープ共同体として九州大学と唐津市に質問状を届け、唐津市より回答がありました。

遺伝子組み換え食品いらない！キャンペーンと連動して、全国の仲間と取り組んだ「種苗への遺伝子操作の表示を求めろ署名」運動では、多くの車協で学習会、上映会などを開催し、一人でも多くの方に提出いただくよう呼びかけ、15車協より45、625筆が届けられました。

また、複数の車協で、各地域の自治体へ向けて、学校給食に有機食材や国産の食材に切り替える要望を届けたり、自治体の取り組みの現状を把握するためのアンケートの実施や、遺伝子組換え作物反対署名を県や市に提出するなどの運動を展開しています。

今後も、私たちの「ゲノム編集食品は食べたくない」という思いや、「選べる表示を求めろ」消費者の意思を、様々な取り組みで届け、運動を拡げていきます。

五、おわりに

GM作物が栽培されて20年以上が経過しました。除草剤ラウンドアップの主成分のグリホサートは、農業現場だけでなく身の回りでも使用され、私たちの健康や環境を危険にさらしています。このようなGM作物によりもたらされた深刻な問題をふりかえることなく、ゲノム編集技術が登場し、更には表示義務を設けないなど、私たちの生活そのものの安心・安全を脅かしています。どの生物、作物にも、曝してもよい遺伝子などありません。遺伝子組み換え食品もゲノム編集食品も、私たちはいりません。2018年に組合員にデザイン募集し、昨年ようやく商標登録が確定したnon-GMOマークは、カタログやチラシ、店舗や業務車などに掲示して活用され、遺伝子組換え反対を広くアピールしています。また、2023年4月施行の遺伝子組み換え表示にかかると改正への対応について、オールグリーンコープの組合員で検討し、2023年春からの商品カタログでの遺伝子組み換えのマーク案内を、「NO！遺伝子操作」とすることを確認しました。

今後も、全国のみさんと共に、GMOフリーゾーン運動や自生GMナタネ汚染調査活動、GM食品に表示を求めろ運動など遺伝子組み換え反対運動に弾みをつけていきたいと考えています。

以上

グリーンコープ共同体 活動報告



グリーンコープ生協おかやま 理事長 飯村 美智子

2021年度 GMOフリーゾーン宣言登録集約表

県名	GMOフリーゾーン登録面積 (ha) (小敷点第3位四捨五入)					GMOフリーゾーン サポーター 宣言人数
	農地 (ha)	牧場 (ha)	森林 (ha)	海 (ha)	家庭菜園 (ha)	
単協	32人 30,196		4人 2,867		1人 0.02	1754人
生産者 メーカー	39人 818,554	(5人) 9.26	1人 9.7	3人 10+太平洋		43社 (輸入2/8人)
単協・生産者 メーカー	71人 848,75	(5人) 9.26	5人 12,567	3人 10+太平洋	1人 0.02	43社 2032人
合計						
総合計						

2021年度 自生遺伝子組み換えナタネ汚染調査

自生調査地点数 (全272カ所)



グリーンコープ共同体

2021年度 自生遺伝子組み換えナタネ調査箇所数

調査生協名	調査県名	調査地点(箇所)	1次検査結果		
			ラウンドアップ(緑)	ハスタ(紫)	判断不可俵体
グリーンコープ生協 おおさか	大阪府	13	0	0	1
グリーンコープ生協 ひょうご	兵庫県	5	1	1	0
グリーンコープ生協 とっとり	鳥取県	4	0	0	0
グリーンコープ生協 (島根)	島根県	5	0	0	0
グリーンコープ生協 おかやま	岡山県	11	0	2	0
グリーンコープ生協 ひろしま	広島県	8	0	0	0
グリーンコープ やまぐち生協	山口県	17	0	0	0
グリーンコープ生協 ふくおか	福岡県	63	2	17	0
グリーンコープ生協 さが	佐賀県	5	0	0	0
グリーンコープ生協 (長崎)	長崎県	5	0	0	0
グリーンコープ生協 くまもと	熊本県	96	0	0	24
グリーンコープ生協 おおいた	大分県	19	0	0	1
グリーンコープ かごしま生協	鹿児島県	12	0	0	0
グリーンコープ生協 みやざき	宮崎県	9	0	0	1
合計		272	3	20	27

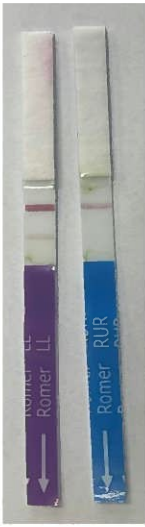
<ひょうご>

神戸市東灘区深江浜での調査

1回目2021年4月2日【バスタ耐性陽性】



Jオイルミルズの道路を挟んで隣にあるマ・マーマカロニ(株)神戸工場前の植え込みに一本だけで自生するセイヨウナタネを発見！



検査結果
除草剤バスタ耐性陽性

5

神戸市東灘区深江浜での調査

2回目2021年4月18日【ラウンドアップ耐性陽性】



同じ地域で二回目の調査

前回は確認できなかったが、今回は中央分離帯に黄色い花が見えて、近づくときカラスシナでした。

6

<おかやま>

岡山県内 製油・飼料・製粉工場一覧(2021年9月2日現在)

回答受信	一般社団法人日本植物油協会 会員企業
8月27日	株式会社Jオイルミルズ(造船工場)
8月16日	加藤製油株式会社(岡山工場/岡山工場飼料棟)
-	日本食品化工株式会社(水島工場)
9月2日	日清オйлオグルーブ株式会社(水島工場)

回答受信	協同組合日本飼料工業 加入企業
-	中国物産株式会社
-	西日本飼料株式会社
8月17日	中野飼料株式会社(水島工場)
8月20日	日本農産工業株式会社(水島工場)

回答受信	製粉工場
-	小田製粉株式会社(本社・工場)
-	丸正製粉株式会社(本社・工場)
8月31日	日清製粉株式会社(岡山工場)

回答受信	上記以外
8月30日	IA西日本くみあい飼料株式会社(造船工場)
-	日清丸製飼料(株) ※西日本飼料株式会社の70%株主、質問書は西日本飼料へ
-	フタノ飼料株式会社

飼料部案として輸入牧草などを取り扱う
水産物産株式会社 ※西日本の本社は飼料部が取り扱っている。岡山工場では取り扱っていない。

7

<ふくおか>



検査結果
除草剤ラウンドアップ耐性陽性

これがGMナタネです

グリーンコープのnon-GMOマーク(商標登録済)
広報に広く活用して、運動を力強くすすめています。

